

# 平成28年度 学校経営方針

## 1 学校教育目標

自他のよさに気づき、  
豊かな生活を創りだす子ども

◇学校教育目標(研究主題)に込めた願い

○「自他のよさに気づき」

- ・一人ひとりがかけがえのない存在
- ・それぞれの違いに気づき、そのことがすてきな個性と認め合える集団
- ・数字だけでははかれない一人ひとりの良さ 多様な価値
- ・他人を大切にし、穏やかに他人の話聞く人間関係

○「豊かな生活を創りだす子ども」

- ・自分が認められ居場所がある温かい学校・学級づくり
- ・互いに力を発揮し、互いに高め合い、互いに学び合う子ども達
- ・一人ひとりが夢や希望を持ち、努力を続けている子ども達
- ・自分の苦手や弱さに向き合い、本音で語り合える集団づくり
- ・自分の生活を振り返り、日々の暮らしの中に自分の変容を見いだす子ども
- ・学校と保護者とが、連携を深めながら、子どもの成長を支援する関係づくり

<指標>

継続とアイデアを

一人一人の子どもに

よき伝統と校風づくり

わくわく登校 にこにこ下校

★子どもの命が輝き、一人一人が真摯に日々の生活に打ち込めるよう、誠実な授業、誠実な対応、誠実な仕事を丁寧に続けていく。

## 2 経営方針 「いのちと信頼、そして誠実」

- (1) 子どもが自らふりかえる力を大切に  
自らの生活を振り返り、記録に残すことにより、自らの成長を自覚しながら、日々の暮らしを創ることができる子どもを育成する。
- (2) 授業づくりの時間を大切に  
日々の授業を開き合い互いに学び合う、授業づくりを中核とした学校づくりに努める。また、学校研究が「毎日の授業の質的向上」につながるように、授業研究会を子どもの見方、教材の見方を深め、授業づくりの核心を学ぶ研修の場にしていく。
- (3) 子どもが主役  
子ども自身が主役となり、自分たちの学校生活をより良く充実したものにしようと、自主的、自律的、協動的に学校生活を送ることができるような仕組みを整える。
- (4) 子どもの育ちが判断基準  
絶えず子どもの育ちを話し合いながら、子どものための改善更新を考え、実行に移していく協働的、組織的な学校づくりをめざす。

## 3 本年度の学校経営の重点

### (1) 日々の授業の充実

主体的に探究的に学ぶ児童の育成により一層努め、「自分たちのくらしと学び」を自ら振り返り、明日の自分を自ら創ろうとする子どもを育てていく。

- ① 「子どもに先手をとらせる」授業づくり、学級づくりへの更なる転換
- ② 探究活動が可能な『総合的な学習の時間』の充実、年間を見通した単元の創造
- ③ 支え合える仲間づくりをめざす学級活動の充実
- ④ 自分事としての課題設定と、課題解決の過程における言語活動の充実

### (2) いのちの教育の推進

自他の「命の尊さ」と「生き方」を大切にし、命のつながりに対する感謝と畏敬の念を育んでいく。

- ① 各教科、道徳教育との連携を図った「いのちの教育」の充実
- ② 学校づくりの主体者として、いじめの起きにくい学校、学級づくり、をめざす児童会・学級会活動の充実

### (3)本音で語り合い、思いやりの心を持ち、互いに高め合おうとする集団の育成

特別活動の研究で育ててきた、心を開いて本音で話し合い、相手の立場を想像しながら聴き合い、みんなで課題解決に向かっていこうとする学級集団づくりを今後も継続して進めていく。

- ①特活の良さを生かした、主体的な児童の更なる育成
- ②学級目標、児童会目標を大切にした集団づくり
- ③子ども自身が自己の変容に気づいていく振り返りと課題設定のサイクルを大切にした支援

### (4)特別支援教育の視点を大切にした授業

一人一人のニーズに応じた支援で、一人一人の良さを引き出しながら、その子の良さが授業に生かされ、一人一人の自己有用感が高まり、みんなで認め合う集団づくりを授業を通して実践する。

- ①良さとがんばりを認めるための見取りと聴き取り
- ②子どもの思いや願い、つぶやきが生かされる授業
- ③誰にでもわかりやすい教室環境と学習規律

### (5)組織的、計画的、継続的で機動力のある教育相談活動の展開

特別な支援を必要とする児童の早期発見、早期対応に努め、保護者との計画的な面談をとおして将来の社会的、経済的な自立に向けた教育支援活動に努める。保護者との協働的な相談活動を行い、子どものよりよい生活に結びつけていく。

- ①幼保連携により情報交換を密にし、進学・就労まで見据えた相談活動の充実
- ②支援ファイルの具体化と日常的活用
- ③ゴールイメージを明確にした教育相談とその記録の蓄積と活用
- ④日常の即時性を大切にした教育相談

### (6)保護者、地域との更なる連携

家庭・地域の教育力を積極的に学校に取り入れ、学校支援体制の整備に努める。

- ①地域の人や自然、歴史との触れ合い
- ①ステイチャーの積極的活用
- ②学校の思いや子どもの姿を伝えることで地域に根ざした開かれた学校づくりを推進していく。

### (7)防災教育、安全教育、危機管理体制の見直しと更新

「最悪を想定し、多重の手立てを講じて、最善を尽くす」ことを基本に据え、非常時に生きる防災教育、安全指導、危機管理体制の構築のために常に見直しを図っていく。

- ①自らの命を自ら守る児童の育成
- ②生活指導と安全指導の一体化
- ③学校防災マニュアル、危機管理マニュアルの見直し、改善
- ④関係団体（学童、見守り隊、南部交番）との更なる連携

## 4 毎日の生活で大切にしたいこと

- ◆あいさつ      ★三中学区連携事業 共通実践事項の継続・推進
  - ・あいさつと返事で感謝の気持ちを育む。
  - ・PTA、地域の方々と連携を図りながら、あいさつの響き合う長岡地区にする。
  
- ◆そうじ      ★黙働      ★価値ある活動を交流し合う情報交換
  - ・陰ひなたなく自律的に責任を全うしようとする児童を育てていく。
  
- ◆「聴き合う力」
  - ・子どもの話の内面まで触れる教師の姿をとおして、子どもの「聴き合う・感じ合う力」を育てていく。
  
- ◆元気に外遊び      ★週2回のロング昼休み
  - ・体を使った遊びを通して、体を動かすさわやかさに触れていく。
  - ・集団遊びの楽しさを意図的に仕組み、グラウンドや体育館で集い合う児童を育てる。

## 5 「ふりかえり」を大切に

天童第三中学校区の小・中学校連携研修会の折、『まなび』『くらし』『からだところ』の三部会において、小中学校の全教員が参集し熱心に討議がなされた。学区の児童生徒を9年間に渡って育てようというねらいのもとに、平成26年度から始められたものである。

『まなび』部会のメインテーマは「ふりかえり」である。「ふりかえり」の大切さは、いわゆる『まなび』についてのみ関わる行動ではない。自分の普段の「くらし」を見つめ直すうえでも「ふりかえり」は大切であるし、「からだところ」部会で話題になっている生活リズムやメディアとの付き合い方についても、自分を真摯に「ふりかえる」ことなくして、自律的な生活に結び付けることはできない。

よって、この「ふりかえり」を地道に積み重ねて、自分のくらしを自分で創ることに近づいていきたいと考えている。一つ一つのことを、成長の自覚を確かめながら「ふりかえり」を進めることは、時間と手間のかかることではあるが、そのことは、子どもの思考や行動を正面から受け止め励ます活動に他ならない。

この大切な「ふりかえり」を本校の子どもを育てる大切な手段として進めていきたい。なおかつ、三中学区の各校でこの取り組みが脈々と行われていくことを考えると、ここから、自らの思考や行動について熟考し、自らの生活を創りつつ将来の姿に思いを馳せて日々努力する、真の「生きる力」を身に着けた児童生徒の育成に近づいていくことができると思う。地道な取り組みではあるが、この「ふりかえり」をあらためて大切にしたいと思うところである。